

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	平成30年2月19日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域との交流を深め、10年目を迎える事になりました。開設当初より入居された方も高齢化が進み介護度も高くなり生活状況に変化がみられる様になりました。よって、外出の頻度が少なくなった分、地域の保育園児や小学生・中学生との交流を持ち、ボランティアによる訪問等で社会との接点を維持しています。出来る限りご本人の要望や希望をくみ取りながら、ご家族の意向に添ったケアを目指しています。今後もご家族との連携を益々密にし、静かな環境の中で、健やかに、穏やかに、にこやかに毎日が送られる様、支援しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所行事の敬老会や芋ほりなど保育園児や小学生、ボランティアなどの協力を得たり、地域の文化祭への出展やマラソンの応援、自治会の総会に管理者が出席して事業所のアピールやAEDの説明や困っている事がないかなど聞き、地域貢献として活動している。職員は理念を基に利用者の暮らし方やできること、したいこと、サポートするなど定期的に見直し、利用者の望む暮らしに繋げている。今年度、大雨特別警報発令時、薬や健康チェック器具などを持ち出し、県の許可を得て石見空港に避難し、全日空から毛布を準備してもらうなどの協力を得て利用者の安全な避難に繋げた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ誰もが見える様にホール2ヶ所に掲示してある。「健やかに、穏やかに、にこやかに」毎日、朝礼時読上げ日々のケアにつなげている。	職員の目に付く所に掲示したり毎日唱和し、利用者と共に笑顔で過ごせるように理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている盆踊りや文化祭など、地域の一員として交流している。敬老会・芋ほりなどでは、ボランティアで保育園児、小中学生、高校生にも来所して頂き繋がりを深めている。	地域行事への参加や事業所行事に保育園児やボランティアなどの来訪がある。野菜の差し入れもあり地域の人と関わり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者を招いたり、ボランティアの方との交流により、認知症の方との関わりを深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議前にテーマを決めて内容を絞る事で意見を求めやすくしている。報告書を掲示し、全職員が会議内容を把握しサービス向上に活かしている。家族様の出席を順番制にしており、早目に連絡している。	利用者の状況や活動を報告し、情報交換や意見交換を行っている。議題に合わせ家族会の報告やインフルエンザの予防策などを伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所通信で取り組みを伝え、運営推進会議に市担当者も出席して頂く。最新情報を伝えて頂いたりアドバイスを頂き、相互関係を築いている。	主に運営推進会議で実情や取り組みを伝え協力関係を築いて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方は自由に玄関より出入りが出来る様開放してある。月1回のスタッフ研修にて、身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、職員の理解を深めている。	身体拘束や虐待の勉強会で具体的な内容の理解をし定期的に言葉がけなどケアの振り返りをしている。転倒のリスクのある利用者は原因を探りカーペットや家具を取り除くこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のスタッフ研修にて、虐待について勉強する機会を持ち、日々のケアの中でもお互いに言葉掛けなどに注意しながら業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修への参加を促し職員に理解を深めてもらっている。スタッフ研修でも、自立支援について話し合いをもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人やご家族へ詳しく説明して理解を頂き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会を通じて意見交換の場を設けている。ご家族の貴重なご意見も後日スタッフに伝達している。	家族の訪問時に日頃の様子を伝え意見を聞いたり、家族会や行事への参加を通し家族同士が交流する場を持ち意見を聞く機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ研修に管理者や代表者が参加し業務の改善点について話し合っている。「言いたい事カード」の設置により、直接代表者へ意見を求める事が出来る。	日頃から職員の意見を聞き業務改善や利用者のケアに関する事など話し合い反映させている。代表は個人面談の実施をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、やりがいのある職場作りを目指すとともに、給与水準の向上を図り職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば各職場へ提示し、研修を受ける機会を確保している。希望があれば勤務調整を行い出来るだけ参加出来る様に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同圏域内でのスタッフ研修に参加し、他施設のスタッフと意見交換(グループワーク)を行い日々のケアの質を高めている。交流での意見など、アンケート方式に記入し次回交流会のテーマを決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族の要望に対し、ゆっくり時間を掛けてお聞きし、再確認する事によって安心感を持って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心してサービスが受けられる様に、電話相談や声掛けをさせて頂いている。その都度、不安要因や問題点の有無についても説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始する前には、施設の環境や、雰囲気などを知って頂く為、事前に来所や、体験利用が出来る様に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中での役割、出来る事などは参加して頂きながら、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回、写真付きの近況報告をご家族に送り、ご本人の生活の様子を伝えている。居室にはご家族との写真を飾り、本人と家族の絆を大切に、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など来られた際、時間に制限は無く、自由に面会が出来る。馴染みの方との面会も、ゆっくり話が出来様、居室又はホールで過ごして頂いている。	家族や知人などの面会時ゆっくり過ごせるように配慮している。レクの時間に昔の話を取り入れたり自宅や馴染みの地域の名所にドライブするなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく生活出来る様、スタッフは気配りし、レクレーションにおいても、その月の行事なども取り入れ、皆で楽しめる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、これまでの関係性を大切に、いつでもご家族・入居先からの相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報と、ご本人の希望や意向を大切にしながらケアにあたっている。思いを伝える事の出来ない方は、ご本人の行動・表情などで確認しながら、本人を理解し、支援している。	生活歴や日々の会話、表情から思いや意向の把握に努め、できること、したいことを役割として活躍の場を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を大切に、ご本人・ご家族に聞いて、その方の馴染んできた生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の一日の過ごし方を把握し、一日をゆっくり過ごして頂いている。一人ひとりの心身状態・有する力等を観察し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どのスタッフも担当を持ち、モニタリングを行い、研修時には意見交換・アイデアを出し合っている。ご家族へ記録物の開示を行っている。	利用者や家族と話し合い希望や好み、自分でできること、支援内容など生活リズム表で情報の共有を行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康状態・気付き・日々の様子を介護記録に記入している。月1回のスタッフ研修時に情報共有し、カンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望により、外出の支援を行っている。2ヶ月に1回、移動理美容車に来て頂き、ご本人・ご家族にカット・カラー・パーマの希望を伺い、サービスを利用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化祭に作品を出展し、展示物・催し物を観覧したり、盆踊りなどの地域の行事への参加、また保育園児・小学生・高校生ボランティアとの交流なども、楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診を受けて頂いている。ご本人・ご家族の希望を大切にし馴染みのかかりつけ医の受診を受けられる様支援している。必要時には、医師・ご家族と相談の上で、他の医療機関の受診も行っている。	入居前のかかりつけ医の継続や協力医による訪問診療で適切な医療が受けられるように支援している。記録物を開示し情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での情報・気づきを常に看護師に伝え相談している。緊急時、必要時には、ご家族・医師との連絡調整も行っている。適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設内での生活状況について情報提供をしている。また入院中面会へ行き、様子について情報交換や相談をし、早期退院へ向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの意向確認をしている。健康状態に変化があれば、その都度ご家族に報告している。ご家族と重度化や終末期に向けた意向を話し合い、事業所で出来る事を十分に説明し方針を共有し、個別に支援している。	入居時や身体状況に合わせ家族、関係者と話し合い事業所の方針を伝え意向の確認をしている。終末期、家族の泊り希望があれば環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を2年に1回全職員が受講出来る様に配慮している。急変時や事故マニュアルについても、見やすい場所に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報・消火の役割を決めた訓練を行い全職員が災害時の役割・行動を認識している。緊急連絡網も掲示し、地域の方も含めて協力してもらっている。H29.7.5大雨特別警報発令により空港へ避難した。その時の気づき等話合った。	消防署員立ち合いの火災訓練や毎月、職員の役割や行動の意識づけとして自主訓練を実施している。7月5日大雨特別警報発令時、県や関係者と協議し安全な指定外の場所に避難した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員から利用者一人ひとりのプライドを傷つけない様、言葉遣いや行動に気を付けて対応している。職員同士不適切だと気付いた時には、声を掛け合っている。	プライバシーや接遇研修を行い人格を尊重しプライドを傷つけない言葉づかいや対応をしている。生活歴や一人ひとりの生活のペースに合わせて過ごせるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えに耳を傾け、思いを聞き、希望に添える様努めている。好みの服選び、レクへの参加等、日常生活の関わり合いの中で自由な自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースに合わせて過ごして頂ける様支援し、ご本人の希望に添った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、身だしなみが整えられる様、洗面台や身近な所にブラシや手鏡を置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食べて頂ける様、食事前に献立を読むなどの工夫している。出来る方は配膳・下膳をしてもらっている。	畑で大根、白菜、いちごなどを収穫する人や、盛り付け、下膳など力を活かしながら職員と一緒にしている。月に1回、都道府県の郷土料理を献立に入れたり、たこ焼き、ホットケーキなどおやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態に応じて看護師に相談し、食事量を決めている。様々な飲み物を提供し水分を取って頂いている。体調の変化を見ながら、バランス良く召し上がって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残渣物が口の中に残らない様、毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケア用ガーゼなども使用し、一人ひとりに合わせた対応をしている。夜間は義歯を洗浄液に浸けて清潔に保てる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から一人ひとりの排泄パターンを確認しトイレ誘導を行っている。誘導が困難な方もタイミングを見てお誘いしている。	「トイレ」の言葉に気がすまない人が多く、排泄パターンを確認し、表情や仕草、行動からさりげない声がけで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表より排便状況を確認し、便秘がちな方は看護師と相談しながら下剤の調整を行っている。毎日の食前体操・散歩など一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添って、タイミングや気分に応じた入浴を楽しんで頂いている。脱衣場も適温にし、好みの湯温でリラックスして入浴して頂いている。	利用者のその時々のお気持ちに合わせた声がけの工夫をするなど柔軟に対応している。重度の人はリクライニングチェアで体の負担を少なくするように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々のお状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明・温度等の環境を整え、気持ち良く休んで頂ける様、寝具は清潔に保っている。ホール内の畳やソファでいつでも休んで頂ける様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬文献綴りがあり、各自どんな薬を処方されているかを職員全員知ることが出来ている。服薬が変更になった場合は看護師より注意報告があり、情報をしっかりと共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、食事の盛り付け・洗濯等、ご本人の出来る事を見つけ生活支援を行っている。行事のドライブで気分転換が出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた行事でドライブがてらに花見やぶどう狩り・初詣・文化祭など、地域の方とも交流がもてる様に支援している。	利用者の希望に沿って、散歩や野菜の収穫、庭で洗濯物を干したり買い物に行くなど支援している。時季に合わせた花見やぶどう狩りでドライブしたり家族の協力を得て定期的に外泊する人もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人はお金を所持されておらずご家族が管理されており、必要な時はご家族に連絡し相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人から年賀状や手紙があり、ご本人希望あつての贈り物、連絡等がある際にはやりとり出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には冷暖房が完備されており、季節や天候により室温照明の調整をしている。食堂には季節に合わせ壁画等を飾っている。TV鑑賞やレクレーションの時間を設け、楽しく居心地良く過ごせる様に工夫している。	花や季節感のある飾り付けや地域の文化祭に出展した貼り絵や折り紙を飾っている。畳コーナーやソファなどでゆっくり過ごせるような居場所の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、テーブル席や畳・ソファ等のスペースがあり、他の利用者方と会話が出来たり、個人が自由になれる様、ご家族と相談し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人・ご家族の写真や思い出の品等を飾ったり、落ち着いた様に音楽流すなど、居心地良く過ごせる様、ご家族と相談し、工夫している。	使い慣れた筆筒、机、椅子や、テレビがあり好みの植木鉢などを置いて心地よく過ごせるように工夫をしている。家族と話し合い家具の配置など利用者の安全面に配慮して環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはそれぞれの表札・お風呂の目印等、利用者の目線に合わせており、個人の洗濯物・食器洗い等出来る事を声掛けし、自立した生活が送れる様工夫している。		